

横浜キャンパス図書館の利用実態調査

川村 久美子

東京都市大学横浜キャンパス図書館は、2018年度にラーニングコモンズ開設に伴う図書館内装のリニューアルを行った。施設としては出来上がったが、ラーニングコモンズの運用など、ソフト面での改革はこれからである。リニューアルから数カ月しかたっていないが、今後の改革に向けて基礎データを取得することを目的に利用実態調査を実施した。ここではその結果を報告する。

キーワード：図書館、ラーニングコモンズ、アクティブ・ラーニング

1 大学生の読書習慣

大学などの教育現場ではアクティブ・ラーニングの必要性が広く議論されるようになった。学修の場の再構築が急務とされ、特にラーニングコモンズの開設を伴う図書館改革が要請されている。日本中の多くの大学図書館がこうした改革を行っている。東京都市大学横浜キャンパスでもラーニングコモンズ開設を伴うリニューアルを2018年に行った。リニューアル後の2018年12月から2019年1月にかけて利用実態調査を実施した。本稿では、その結果を報告する。

図書館利用実態調査を実施するにあたって、現代の大学生の読書習慣について簡単に調べた。

第54回「学生生活実態調査」(全国の国公立、私立大学の学部生対象、2018年10-11月調査)^[1]は、読書習慣の乏しい大学生像を相変わらず描き出している。大学生の一日あたりの読書時間は平均30.0分で、3年連続の減少を記録した前年の23.6分よりは6分ほど伸びたもののやはり低迷している。また、1日の読書時間が「0」分の学生の割合は48.0%で、前年の53.1%よりは若干減ったものの、この5年間で13.5%も増えている。本を全く読まない「0」分の学生の割合が半数近くいるという事実は変わっていない。一方で読書時間120分以上の学生が7.2%（前年は5%）いる。しかもこれは数年前から変わっていない。少数派だが読書の身についた学生が相変わらず存在することがわかった。

何が大学生の読書習慣を少なくさせているのだろうか。若者の時間を占有しているものといえばスマホだろう。一年前の第53回「学生生活実態調査」(2017年調査)が一日のスマートフォン（スマホ）の利用時間を調べて

いる。

その結果によれば、スマホ利用の一日平均は177.3分（男子174.4分、女子180.8分）だった。3時間近くに及ぶわけで、若者の生活を圧迫しているのは間違いない。また利用時間が「0」分だったものは0.8%に過ぎず、ほぼ全員がスマホを利用しているわけだ。読書への影響も考えられそうである。もっとも全国大学生活協同組合連合会が調査年ごとの読書・スマホ・勉強時間の推移を算出し、読書時間との関係を分析した結果では、読書時間へのスマホ時間の直接的な影響は見られなかった。スマホをやる人は読書時間が特に少ないということではないらしい。

一方、筑波大学図書館情報メディア系の逸村裕教授は興味深い実験をしている^[2]。学部学生に、あるテーマで自分の意見をまとめるようレポート課題を出す。調べ方は自由で、インターネットを使っても図書館を使ってもよい。実験では、レポート課題に取り組む被験者学生の行動を逐一観察した。その結果、読書習慣のある学生とない学生とでは探索行動がまったく異なることがわかった。また出来上がったレポートも質が異なっていた。読書習慣のない学生は、インターネットでひたすら情報探索を行う。一方、読書習慣のある学生はインターネットで情報を探した後、図書館へ向かい関連図書を集めて熟読した。

出来上がったレポートは、これらの探索行動を反映したものだ。読書習慣のない学生のレポートは、キーワード検索で得られる情報を網羅的、羅列的に載せただけのものだ。載せられた情報は多様だが、情報の間に十分な脈略がない。情報間の統合を考えて自分の研究テーマとして論理的に鍛えていくといったことがない。ただあふれる情報に翻弄された印象のレポートだった。

他方、読書経験のある学生のレポートは、自分の意見

を論理的に展開するといった特徴を持っていた。結果が示すのは、深く論理的に思考するのに読書は欠かせないということである。読書習慣が確立している若者の割合が極めて少ないことは、実は由々しき問題なのである。

まとめると、大学生のほぼ半分が日頃まったく読書をしない。一方、スマートフォンは毎日3時間ほど利用する。読書習慣がないから、インターネットの情報を脈絡なく並べただけのレポートしか書けない。論理的思考が弱い。そんな現代大学生像が見えてくる。そうした大学生にアクティブ・ラーニングを実践してもらうにはどうすればよいのか。大学は、図書館はどのような場を提供すればよいだろうか。本稿ではそうしたことを考えていく。

2 横浜キャンパス図書館の実態調査

2.1 調査の目的と概要

横浜キャンパス図書館は、平成 27 年度あたりからアクティブ・ラーニングを念頭に改修計画を検討し、一階部分の改装を平成 29 年 4 月までに、二階部分の改装を同年 9 月までに終了した。一階部分には従来からの AV 視聴コーナーに加え、複数人による協働学習が可能なラーニングcommons、新聞・雑誌をまとめたニューススタンドコーナー、ラーニングサポートデスクを設けた。ラーニングcommonsには、対面型で4.5人のグループがゆったり座れ、テーブル脇にモニターを常設したソファ型のボックス席をつくった。設置された中型のモニター

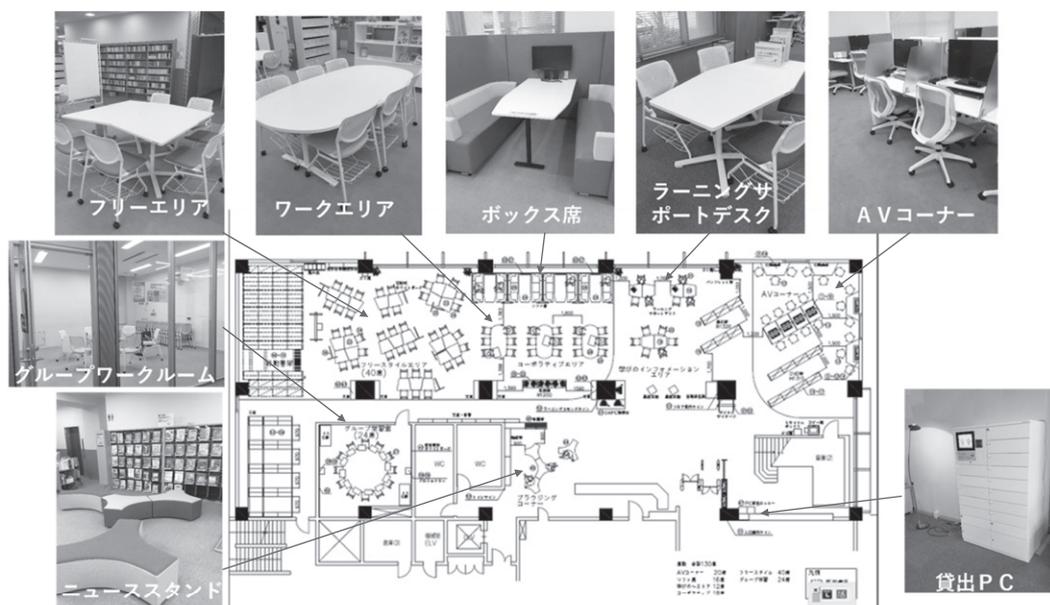


図 1 図書館 1 階見取り図

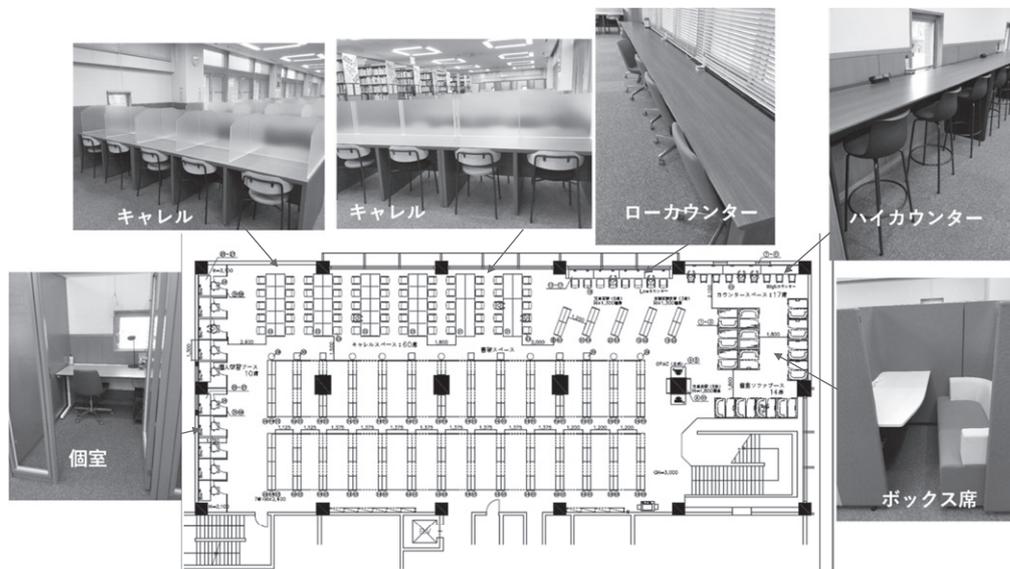


図 2 図書館 2 階見取り図

にはノート PC を接続することができ、多人数での視聴が可能である。加えて移動可能型のテーブルと椅子から成るワーキングエリアならびにフリーエリアを設けた。通常は4人席、6人席として利用し、さらに細かくすることもまた集合させることもできる。それぞれのテーブルには人の背丈ほどの移動式のホワイトボードを備え付けた。さらに机と椅子が15ほど入るガラス張りの個室、グループワークルームを一室設けた。

二階部分は、個人学習を意識した従来型の座席形態である。ボックス席、ハイカウンター席、ローカウンター席、キャレル席、個室から構成されている。

図書館のリニューアルに伴って図書館利用にどのような変化が起きたのか。本年度は、リニューアル直後の状況を調べるために小規模な調査を企画した。改装後、2階はまだ3カ月、1階はまだ9カ月しかたっていない。図書館の利用案内もまだ十分に学内に行き渡っていない。したがって、今回の調査は今後の調査のベースラインとしてのデータ取得の意味が大きい。今後どのような施策をしていったらよいかを考える際の材料とする。

繰り返しになるが、調査目的は、横浜キャンパス図書館改装後の利用実態を明らかにすることである。調査はフィールド調査とアンケート調査から構成されている。フィールド調査は平成30年12月18日（火曜）、19日（水曜）、20日（木曜）、21日（金曜）と平成31年1月11日（金曜）、15日（火曜）、16日（水曜）、17日（木曜）、18日（金曜）（注1）の計9日実施した。一日3回（15:00、17:00、19:00）図書館の利用状況を観察し記録を取った。記録した項目は、1) 図書館のそれぞれの場所に何名の利用者がいるか、2) それぞれの利用者について個人で利用しているのか、グループで利用しているのか、3) グループ利用であれば何人のグループか、4) 座席でPCを利用しているか、の4項目である。一方、アンケート調査は、フィールド調査を行ったそれぞれの日時に図書館を利用していただいた学生全員に対し実施した。「図書館利用」に関するアンケート用紙をその場で渡し記入してもらった。アンケート回収は、退館の際に入口の専用箱に入れてもらう、あるいは図書館受付に渡しってもらうというかたちをとった。なお、図書館利用に関するフィールド調査とアンケート調査は、互いにある程度対応がつくようになっている。アンケート配布時に配布者がアンケート用紙の事務欄にあらかじめ日にち、時間、図書館のエリアを記入した。事務欄の情報をもとにアンケートを分類し、必要な分析を行った。

2.2 フィールド調査の結果

フィールド調査の結果では、全日時を合わせて合計726席の利用があった。表1は日にち、時間、図書館のエリアごとに利用座席数を見たものである。

まず、一日当たりの平均利用席数を時間ごとに見てみよう（表2）。1, 2階合わせて（全館で）15時には平均して35.8席、17時には26.6席、19時には18.3席が埋まっていた。大学生にとって12月、1月は年度のうちでもっとも忙しく、レポート、卒論のための調べ物、試験勉強などが多い時期だが、利用率はまだ上限に近いとはいえない（稼働率については後述）。十分な余裕がある。今後、図書館利用を積極的に推進していく必要があるだろう。次に階ごとに一日当たりの平均利用席数を見る。一階では、15時に15.3席、17時が11.3席、19時が6.2席が利用されていた。二階では、15時に20.4席、17時に15.2席、19時に12.1席の利用があった。

表3は、一日平均の利用席数を、図書館エリアごと時間帯ごとにまとめたものである。利用の多い人気席を見ると、一階ではボックス席が際立っている。一日当たりの平均利用席数が15時で6.7席、17時で7.2席、19時で3.8席だった。二階でもやはりボックス席の利用が多く、平均利用席数は15時で11席、17時で8.9席、19時で7.2席であった。二階で次に利用が多いのがキャレル席である。ただ、キャレル席は全部で60席あるのでまだ十分余裕がある。一方、設備の整った個室（全部で10室）の利用は15時で1.8席、17時で1.6席、19時で0.9席と決して多いとはいえない。2階の改装からわずか3カ月であり、個室は事前予約が必要で、その手順も十分周知されていないことから、このような結果になったと思われる。

1階ラーニングコモンズはグループ学習に向けたエリアである。どのような人数構成の利用だったのだろうか。

図3はボックス席、ワーキングエリア、フリーエリアそれぞれにおける利用人数の割合を見たものである。この結果を見ると、ボックス席では2人利用、3人利用がそれぞれ43%、25%と多い。合わせて7割近くになるので、グループ学習が根付き始めているといえるだろう。またボックス席は個人利用も29%と多く、図書館への要望（自由記述）欄に「グループで使用したいのに個人で占有して使えなかった」といった書き込みが多い理由となっている。ラーニングコモンズのうち、ワーキングエリア、フリーエリアとなると、個人利用は50%以上になる。もっとも、4人～6人の多人数使用も頻回ではないが見られる。まとめると、図書館一階のラーニングコモンズは、グループ学習での利用が活発だとはまだいえないが、場所自体がそれに適したものであることは示された。今後、授業以外にも様々なプログラムを企画してグループ学習を誘発していく必要があるだろう。

フィールド調査ではさらに、ノート PC を座席において利用しているかどうかを調べた。調査した図書館エリアは、1階ではボックス席、ワークエリア、フリースタ

表1 日時ごと、図書館エリアごとに見た利用座席数

		1F							2F				
		AV コーナー	ラーニ ング サポー トデス ク	ワー ク エリ ア	BOX席	フリ ース タイ ルエ リ ア	GSR	ニュー ス スタ ンド	BOX席	High カウ ン ター	Low カウ ン ター	キャ レ ル	個人学 習 室
12/18(火)	15:00	1	0	0	8	6	0	0	14	0	2	7	1
	17:00	4	0	1	6	1	0	0	8	0	1	3	0
	19:00	4	0	1	6	1	0	0	10	0	1	1	1
12/19(水)	15:00	1	0	0	6	0	0	0	8	0	1	0	1
	17:00	0	0	0	8	0	0	0	6	0	2	0	0
	19:00	0	0	0	5	0	0	0	4	0	0	0	0
12/20(木)	15:00	4	0	0	3	1	0	0	9	1	1	6	1
	17:00	1	0	0	5	0	0	0	10	1	1	2	0
	19:00	0	0	0	2	0	0	0	4	0	1	1	0
12/21(金)	15:00	3	2	2	11	4	0	0	7	0	0	8	1
	17:00	1	0	0	4	1	0	0	5	0	0	1	1
	19:00	0	0	0	0	1	0	0	9	0	0	3	0
1/11(金)	15:00	4	1	0	4	0	0	0	8	0	1	3	1
	17:00	0	0	0	7	0	0	0	7	0	1	1	2
	19:00	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	0
1/15(火)	15:00	0	0	3	9	9	0	0	14	0	1	9	6
	17:00	4	1	0	8	2	0	0	12	0	3	4	4
	19:00	0	0	0	10	2	0	0	13	0	3	3	1
1/16(水)	15:00	1	1	2	6	1	12	0	14	3	1	8	3
	17:00	3	0	0	10	3	0	0	12	2	2	4	4
	19:00	3	1	0	4	1	0	0	3	0	1	2	3
1/17(木)	15:00	0	0	0	6	6	0	0	12	1	1	4	1
	17:00	0	0	1	9	3	0	0	12	0	1	3	2
	19:00	0	0	0	0	4	0	0	11	0	2	8	2
1/18(金)	15:00	2	1	0	7	11	0	0	13	1	2	8	1
	17:00	1	2	1	8	7	0	0	8	1	3	7	1
	19:00	1	0	0	7	2	0	0	8	0	2	6	1
合計	15:00	16	5	7	60	38	12	0	99	6	10	53	16
	17:00	14	3	3	65	17	0	0	80	4	14	25	14
	19:00	9	1	1	34	11	0	0	65	0	10	26	8
	総計	39	9	11	159	66	12	0	244	10	34	104	38

表2 図書館階ごと時間帯ごとの利用席数（日平均）

図書館エリア	1日平均			
		15:00	17:00	19:00
1階	32.9	15.3	11.3	6.2
2階	47.8	20.4	15.2	12.1
全館	80.7	35.8	26.6	18.3
				(単位：席)

表3 図書館エリアごとと時間帯ごとに見た利用席数（日平均）

図書館エリア	時間帯			総計
	15:00	17:00	19:00	
1階				
AVコーナー	1.8	1.6	1	4.3
ラーニングサポートデスク	0.6	0.3	0.1	1
BOX席	6.7	7.2	3.8	17.7
ワークエリア	0.8	0.3	0.1	1.2
フリースタイルエリア	4.2	1.9	1.2	7.3
GSR	1.3	0	0	1.3
ニューススタンド	0	0	0	0
2階				
2階BOX席	11	8.9	7.2	27.1
ハイカウンター	0.7	0.4	0	1.1
ローカウンター	1.1	1.6	1.1	3.8
キャレル	5.9	2.8	2.9	11.6
個室	1.8	1.6	0.9	4.2
				(単位：席)

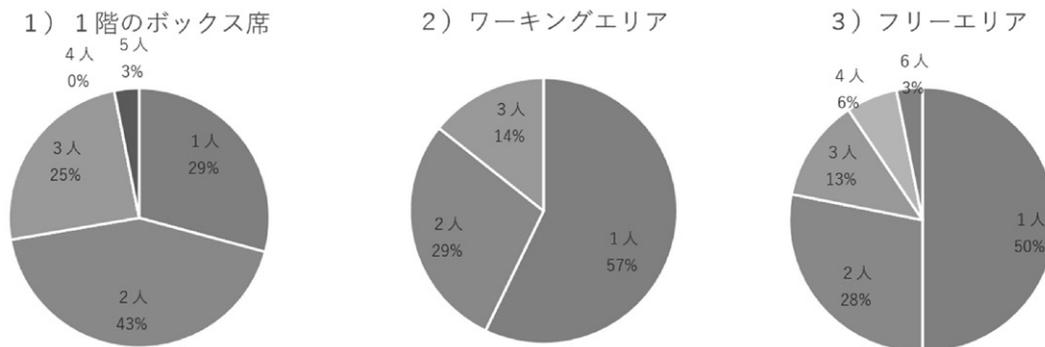


図3 1階エリアごとに見た利用人数の割合

イルエリア、ラーニングサポートデスク、2階ではボックス席、ハイカウンター席、ローカウンター席、キャレル席である。結果を見ると、全体で637席が対象となったが、そのうちノートPCを利用していたのは406席、63.7%だった。なお、図書館はノートPCの貸し出しサービスを行っている。したがって各席で利用されているPCは個人のものの場合も図書館のものの場合もあった。図4は、「エリアごとに見たノートPC利用割合」である。場所別にみると、若干ばらつきはあるものの、ほぼ全エリアでPC利用は極めて一般的だといえる。

以上が、フィールド調査の結果明らかになった項目である。

2.3 アンケート調査の結果

調査日時に利用があった図書館座席は合計して726

席だった。利用者すべてにアンケートを配布したが回収できたのは496票であった。回収率は68.5%であった（アンケートを受け取ったが提出しなかったもの、提出したが無回答だったものもあり、フィールド調査の数と一致しない）。またそのうち33票は白紙だったので、有効票は463票である。ここではその463票について分析を行った。

注意が必要なのは、本アンケート調査のデータは496人の図書館利用者のデータではないことである。利用者がもし図書館に15時前から来ていて17時以降まで残っていた、あるいは17時前からきて19時以降まで残っていたというように、その席に2時間以上座っていたとすると、その利用者は当日、二回アンケートに回答することになる。調査結果から、図書館に3時間以上滞在したと答えたものがかなりいたことが分かっている。

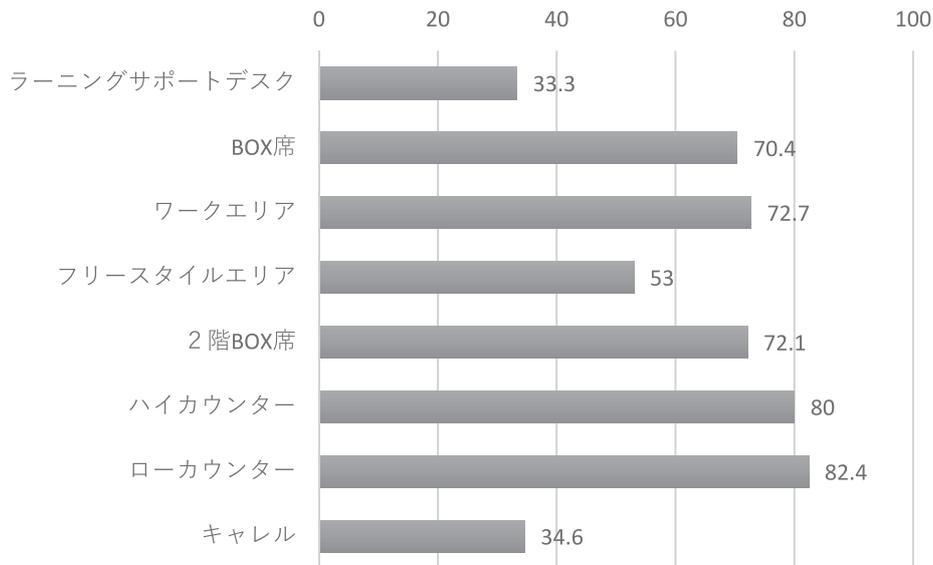


図4 図書館エリアごとに見た、PC利用の座席使用の割合

表4 アンケートデータ回収枚数の内訳

日日	時間帯			合計	図書館エリア	回収枚数
	15:00	17:00	19:00			
12月18日	とれてない	16	16	32	1階	
12月19日	13	8	6	27	AVコーナー	6
12月20日	17	16	7	40	ラーニングサポートデスク	12
12月21日	28	14	6	48	BOX席	140
1月11日	17	17	4	38	ワークエリア	10
1月15日	43	24	24	91	フリースタイルエリア	56
1月16日	35	24	7	66	GSR	0
1月17日	24	27	23	74	ニューススタンド	3
1月18日	37	22	21	80	2階	
合計	214	168	114	496	2階BOX席	165
					ハイカウンター	10
					ローカウンター	19
					キャレル	62
					個室	9

る(後述)。また、利用者には図書館を毎日利用すると回答したものが多く、同じ人物が何度もアンケートに回答したとも考えられる。したがって調査結果の解釈には注意が必要である。調査結果は、あくまでも各時点、図書館の座席についていたものがどのような属性を持つかを示すに過ぎない。各時点での図書館の利用状況についてまとめたものと理解してもらいたい。

表4は、アンケート調査で得られたデータを日時、図書館エリア別にまとめたものである。これを図書館エリアごとに見ると、一階ではボックス席が圧倒的に多く次にフリーエリア、2階もボックス席が圧倒的に多く続いてキャレルからの回収となっている(注2)。

図5に回答者の学年、図6に所属学科を示した。卒

業論文の提出間際の時期なので4年生の利用が多いと見込んでいたが、実際には4年生以上に1,2年生の利用が多かった。また所属学科については、環境学部環境創生学科が一番多く、ついでメディア情報学部社会メディア学科、情報システム学科、環境学部環境マネジメント学科(2019年度より環境経営システム学科)の順になる。男女比は68.5%対31.5%だった。

次に、図書館の利用目的について聞いた結果である(図7)。問いは「いま座っている席の利用について伺います。現在利用している目的について当てはまるものすべてに○をつけてください」であり、選択肢は表の通りで複数回答を認めた。図7に結果をまとめた。これを見ると「授業の課題、宿題」がもっとも多く、続いて「試

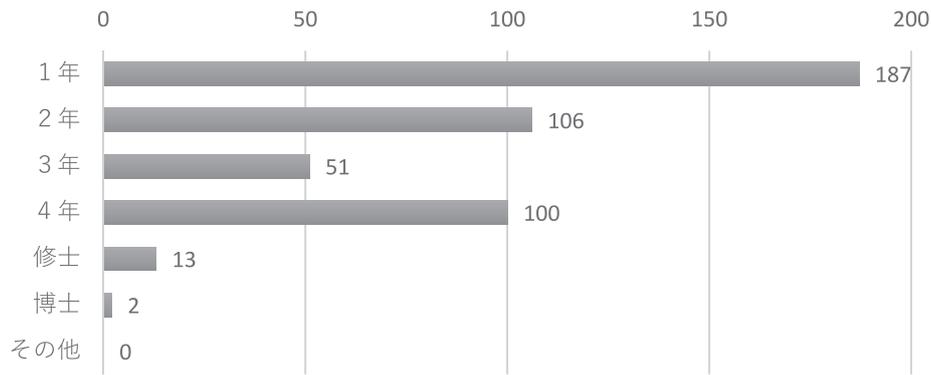


図5 利用者の学年

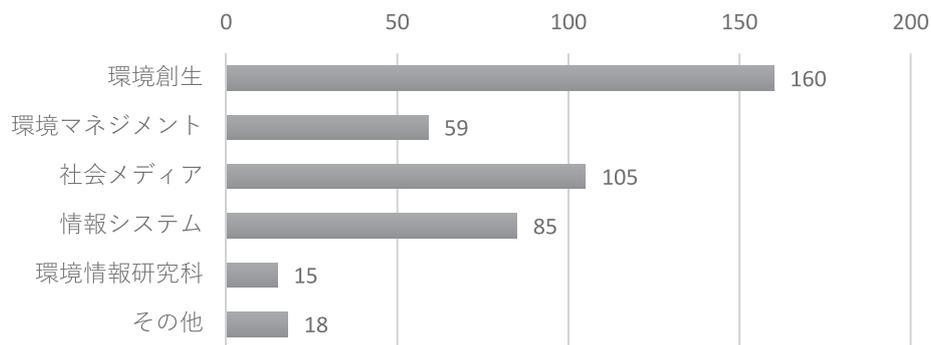


図6 利用者の学科

験勉強」, 「事例研究・卒業研究」, 「レポート作成」, 「授業の予習, 復習」となっている。事例研究・卒業研究(修論, 博論も含む)や期末テスト前の一番忙しい時期だったことが結果に反映していると思われる。また1階が談笑も可能になったことから「友人と談笑」「時間つぶし」などの回答もいくらか見られた。一方, 新聞や一般雑誌の閲覧, 読書といった, 学修関連以外での図書館利用は意外に少なかった。

次に, 座席において図書館資料を利用しているかどうかを聞いた結果である。図書館資料を利用している座席は29%で, 7割以上が利用していないことがわかった。図8は, 図書館エリアごとに図書館資料を利用しているかどうかを見たものである。今回の調査で座席利用率が高かったのは1階ボックス席, 2階ボックス席だが(表1参照), その両場所において図書館資料を利用している座席の割合は3割を切っている。図書館資料を利用しているとした約3割の回答者に追加して「利用している資料すべてに○をつけてください」と質問した。結果としては, 図書, 学術雑誌, デジタル資料(電子ブック・データベースなど)が多いことがわかった。

図書館に来るのは図書館資料を参照するため, そう思いがちだが, 調査結果は必ずしもそうしたことを示していない。すでに見たように, PC利用は63.7%にも及ぶのだから, 図書館資料の利用ももう少しあってほしい。もちろん図書の貸し出し状況も同時にしておく必要が

あろう。図書館内では資料を参照せず, 借り出す習慣の人もいるだろう。ただし学内にはメディアホールやカフェなど勉強スペース, グループ学習の場がほかにもたくさんある。そのうちなぜ図書館を利用するのかといえば, 豊富な書籍や資料(デジタル資料も含めて)が平行して利用できるからだろう。しかし結果はそうっていない。本稿最初に問題にした現代大学生の読書習慣も影響しているようだ。大学生は読むことが少なく, レポート作成にあたって, 情報源として書籍よりインターネットに頼りがちということだ。もしそうならなんらかの対策が必要だろう。

読書習慣が極めて限られている若者にとっては, 図書館があるだけでは十分でないのかもしれない。図書館に来てもらうこと(来館者数を増やす)を目標とした図書館活性化対策だけでは十分ではなく, 図書館資料の活用を促す対策も平行して行っていく必要があるだろう。図書に親しむ自発的活動, 学生が主体となった活動などを企画することが重要だろう。

図9は図書館の座席での滞在時間を聞いた結果である(「いまこの席をどのくらいの時間利用する予定ですか」)。選択肢は図9の通りである。このうち選択がもっとも多かった回答は「3時間以上」であり, 群を抜いている。3時間以上の利用者は当日アンケートに複数回回答している可能性がある。結果の解釈には注意が必要である。しかし, 仮に「3時間以上」の回答のすべてを

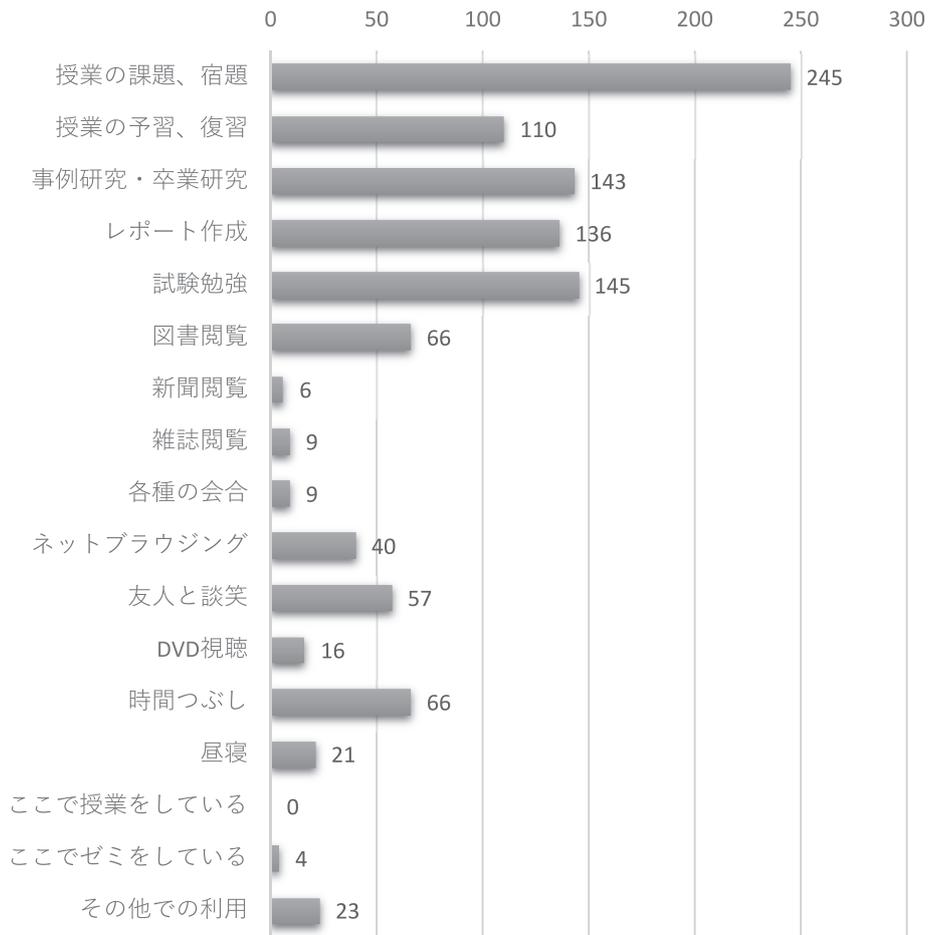


図7 図書館座席の利用目的

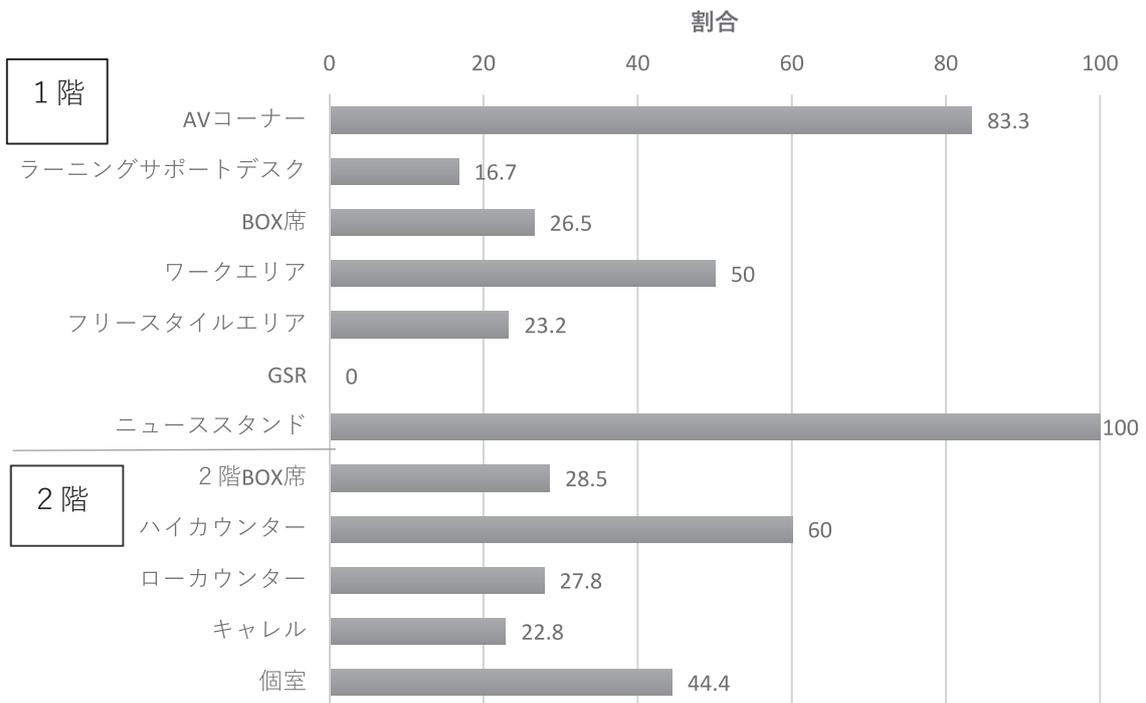


図8 図書館エリアごとに見た、図書館資料を利用している座席使用の割合

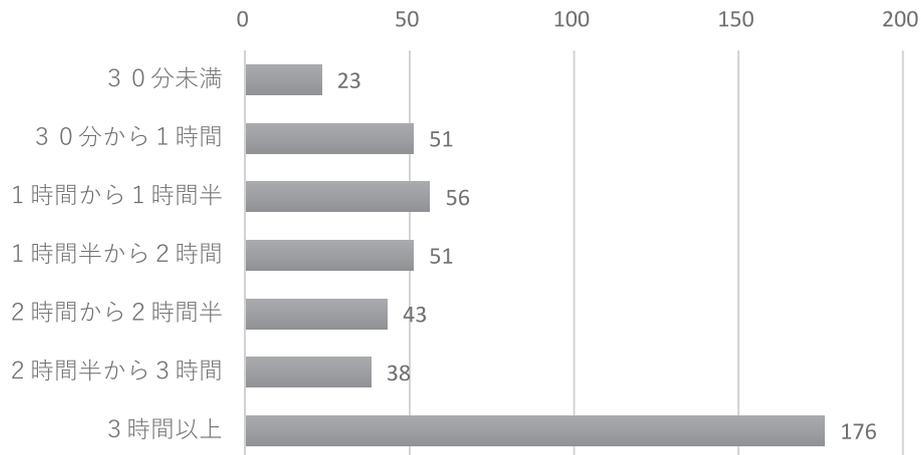


図9 図書館での滞在時間

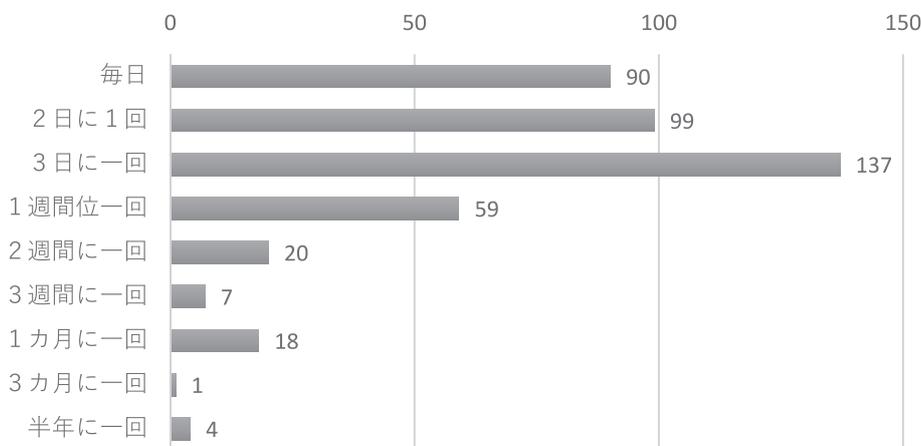


図10 図書館の利用頻度

1人が二回回答したとみなし、数値を半値にして他と比較してみても、群を抜いて多いという事実は変わらない。半分にすると88座席だが、これは一日平均で9.8人を意味する。3時間以上滞在する「図書館ファン」が毎日少なくとも10人はいるという勘定である。

最後に、日常の図書館利用の頻度について聞いた質問の回答結果を見ておこう（図10）。ここでも頻度多く利用するものほど、アンケートに複数回、回答している可能性があることを勘案し、結果を解釈しなければならない。最も多かったのは、「3日に一回」の回答であり、「2日に一回」、「毎日」がこれに続いている。12月、1月と、大学カリキュラムとの関係で図書館利用が最も多くなる時期でも、利用しているのは図書館利用を日常とする学生で、図書館利用の頻度の少ない学生がこの時期だからとこぞって利用するというのではないことをこの結果は示している。となると、図書館利用の少ない学生を図書館へ誘う対策も今後、必要になってくるだろう。

さて、施設の稼働率という形でデータを見ると、まだまだ空間に余裕がある状況が見えてくる。まず、それぞれの図書館エリアの収容席数を見よう。

〔1階〕

AVコーナー：1人掛け×8席、3人掛け×4席（合計20席）

ラーニングサポートデスク：12席

ボックス席×4（合計16席）

ワークエリア：6人掛け×3席（合計18席）

フリースタイルエリア：40席

グループスタディールーム：24席

ニューススタンド：ソファ

〔2階〕

ボックス席：14席

ハイカウンター席：9席

ローカウンター席：8席

キャレル席：60席

個室：10室

表3で利用席数の一日平均を見たが、そのなかの15:00のデータを収容席数と比較し、実際にどのくらいの稼働率だったかを計算してみた。結果は1階AVコーナーは9%、ラーニングサポートデスクは5%、ボックス席は41.9%、ワークエリア4%、フリースタイルエリア10.5%、グループスタディールーム5.4%、ニュ

ーススタンド 0%，2 階ボックス席 78.6%，ハイカウンター席 7.8%，ローカウンター席 13.8%，キャレル席 9.8%，個室 18%であった。どこもまだ相当に余裕がある。1 階、2 階ともボックス席だけは稼働率が高く、人気の席だといえる。

今回のアンケートでは、最後に、図書館への不満や要望などを書いてもらう自由記述の欄を設けた。記入は総計 100 件以上にのぼった。様々な意見が出されたが、「改装前よりとても利用しやすくなった」、「席が増えて集中しやすくて快適です」といった肯定的な意見も多かった。今後のために、図書館への不満や要望について、その代表的なものを項目ごとにまとめて本稿最後に収録しておく。

3 考察

横浜キャンパス図書館は今後どのような図書館を目指すのか。自主的に学び知識を創造する学生の活動を支援する図書館、学修の場としての図書館であろう。そのため一人学習以上に集団学習、特に実践的学習を促す仕組みづくりが重要だろう。ラーニングコモンズを開設したいま、ハードとしての仕組みは一応整った。しかし図書館改革は途に就いたばかりである。ソフトとしての図書館づくりは今後さらに推進していく必要がある。今回のリニューアルで、横浜キャンパス図書館が学生にとって居心地のよい場所、学校へきて長く滞在する場所になったのは事実である。調査結果は、利用者が頻度多く図書館に来て長時間滞在することを示している。また本稿最後に載せた自由記述の回答には長く滞在するがゆえに出てくる要望が載っている。

さて、本調査で見えてきた利用状況についてまとめよう。リニューアルからわずか数カ月しかたっていないが、ラーニングコモンズの利用は少しずつ増えてきた。複数人による利用も見られる。個人利用に適した二階のスタディーエリアも、オープンしてまだ三カ月とはいえず利用率はまずまずである。とくに一階、二階ともにボックス席の利用が多い。居心地のよいソファ型であること、三方を壁で仕切られていて独立性が高いこと、モニターなどの装置がついていることなどが人気の理由だと考えられる。

しかしながら利用率のデータを施設の稼働率という観点から見ると、多くの場所が 10%程度でしかなく、決して十分とはいえない。横浜キャンパスの学生数は 1500 名前後だから、全館合わせて収容席数 230 席ほどの図書館が全席埋まってもおかしくない。満席の利用でも全学生の 15%にしかない。特に 12 月 1 月という学年末の時期なのである。今後、図書館利用を強く促していく必要があるだろう。

計らずもこの結果は、最初にあげた現代大学生の読書

習慣を傍証したかたちになった。図書館利用者はわずかである。その利用者も、4 分の 3 が館内滞在時に図書館資料を利用していない。また図書館サービスの一環として今回開設されたラーニングサポートデスクの利用も少ない。

そうした大学生だからこそ、アクティブ・ラーニングを実践するための様々な仕掛けを図書館が用意することが重要なのだろう。ラーニングサポートはその仕掛けの一つである。開設直後の 2018 年度前期には、ラーニングサポートデスクの利用がいくらかあった。ある授業がラーニングサポートデスクの利用を課題のなかで推奨あるいは義務付けたからである。今後、授業と関連づけるなどして利用をさらに促進していくことが必要だろう。

今回の調査で意外だったのは、滞在時間を「3 時間以上」とした回答が群を抜いて多かったこと、そして「毎日利用」「2 日に一回」「3 日に一回」など利用頻度が多い回答者が多かったことだ。図書館に足繁く通い、長時間滞在して、様々な活動を行う“図書館ファン”が少なからずいることをこの調査結果は示している。現在、横浜キャンパス図書館は学生モニター制度を設けている。モニターには、図書館運営に対して意見を言ってもらい、図書展示、ビブリオバトル、読書会などの学生主体の図書館利用企画をつくり運営してもらいなどしている。横浜キャンパス図書館は、「学生が主体的に関わり、ともに作り上げていく図書館」を目指している。だからこそ“図書館ファン”の存在が貴重になる。次年度は学生モニターの数を増やして学生主体の活動をさらに活発化させる予定だが、“図書館ファン”にも大いに活躍の場があるだろう。

さらに館内での図書館資料の利用が少ないこともわかったので、資料に親しんでもらう企画作りも今後の課題となるだろう。

すでに横浜キャンパス図書館では、ビブリオバトル、読書会、読み聞かせなど、読書を共有するための仕組みを作り出している。例えば、読書会によって読書体験の共有をすると、各自の読みが深まることが分かっている。読書会の手順を簡単に紹介しておこう。読書会への参加者は自分で読んで感動した本、気に入った本を各自何冊か持ち寄る。それらの本をテーブル中央に並べ円形に座る。まず、各参加者は他者が持ち寄った本のなかから興味を引く本を選ぶ。その後しばらく時間が与えられ、選んだ本をざっと読む。それから、選んだ本をざっと読んで感想を各自順番に述べる。次に、それぞれの本の持参者がどうしてその本を気に入っているのかを述べる。続けて本の内容について全員で話し合う。こんな簡単な仕掛けだけでも、自分の読みを他人の読みと比較すること、共有することができ理解が進む。読書が孤立

した知の探検にならないようにする仕組みもアクティブ・リーディングの実践に役立つだろう。

アクティブ・ラーニングは他者と一緒であればそれで生じるというものではない。逆に、一人学習であってもアクティブ・ラーニングは成り立つ。個人的な読書経験でも、受動的な読みとアクティブ・リーディングがありえる。新たな学習観の登場はそれを含意している。

旧来の学習観では、例えば読書によって起きる認知的変化は情報が脳に取り込まれることと捉えた。コンピュータが情報を記憶するのと同じである。そこでは読み手を情報の受け手として、読書を受動的なものとして描く。しかしながら、読書は著者との対話という考え方も成り立つ。対話だとすれば読み手もそこに何かを提供している。回数を重ねて読み込めば理解も確かに深まる。これは読み手が提供するものが増えるからだと考えられる。そうしたアクティブ・リーディングを実践させる

ための支援も今後、考えていかなければならないだろう。

図書館はただの入れ物ではなく、単にハードとして存在するのではない。蔵書や資料を取りそろえることだけが重要なわけではない。図書館は日々紡ぎあげられる活動としての意味を持つ。教育の場、学習の場としていかに作り上げていくか、いかなる活動をそこで展開するか、つまりソフト面での図書館を持続して作り続けていく必要がある。ソフト面での図書館を充実させるには利用者と学校サイドが、あるいは利用者どうしがコミュニケーションを交わすことが重要である。本調査もその道具としての位置づけがある。横浜キャンパス図書館の今後の改善のためのコミュニケーションツールとなれば幸いである。

表5 アンケート自由記述欄への回答のうち主なもの

図書館施設

- PCから出力できるプリンターがない
- スキャナがない
- 貸出、返却の手続き機械が一つしかない。
- BOX席を増やしてほしい。
- 荷物置きボックスがほしい。
- 冷水器がほしい。
- モニターとPCをつなげるためのアダプターがない。
- GSRに延長コンセントがほしい。
- GSRのプロジェクターと自分のPCをつなぐアダプターがない。
- PC使おうとするとコンセントが遠く、円形で話し合いできない。
- パソコンの充電ができないテープがある。
- ハイカウンター席、キャレル席の椅子が高く、高さ調節できず、座りづらい。
- 時計が小さくなって見づらい。
- 大人数で見れるAV席を復活してほしい。
- 2階にWi-Fiが通りづらいことがある。

図書館情報

- 図書館情報が入ってこない。Twitterや掲示は一部の人しか見ない。
- BOX席の空き状況がリアルタイムでわかるとよい。
- 個室の予約をWEBでできるようにしてほしい。カウンターでするのは手間。
- 個室の利用方法についてもっと広報してほしい。
- BOX席、個室の空き状況が確認しづらい。
- ELNETの利用を増やす。簡略化する。記事検索のように自動ログインできるようにしてほしい。

図書館資料

- 資格試験、英語検定などの参考書が古くて少ない。
- ファッション誌、文庫(小説)を増やしてほしい。
- 学術研究的DVDの貸し出しをしてほしい。
- DVDのジャンルがアクション、娯楽に偏っている。教養系のものもほしい。
- 海外小説が地下に行ったので不便。
- 貸出頻度の高い本、人気の本などを展示してほしい。

館内環境

- 館内が乾燥している
- 館内が寒い
- 館内が夏は暑い。
- 空調が不安定。寒い日と暑い日の差があり過ぎる。

図書館の利用ルール

- 何もしていない人が1人でBOX席を占拠している。
- 1階がうるさ過ぎる。会話できるけど騒がしすぎない場所がほしい。
- 2階で私語をする人が多い。
- 2階のBOX席で寝ている人がいる。
- 貸し出しPCのコードがぐちゃぐちゃ、充電なし、反対方向に戻してあるなど。

全般

- 世田谷キャンパスのような地下空間(大きなラーニングcommons)がほしい。
- 内装を世田谷キャンパスの図書館のようにしてほしい。
- トイレが2階に一つしかないのは不便
- 自販機がほしい。
- 休日の開放が少なく利用しにくい(日曜日など)。
- 冬季休暇時に図書館を開館してほしい

参考文献

- [1] 全国大学生生活協同組合連合会, 第54回学生生活実態調査の概要報告, <https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>
 - [2] NHK, クローズアップ現代「広がる“読書ゼロ”日本人に何が」, No.3592,2014,12,10.
<http://www.nhk.or.jp/gendai/articles/3592/1.html>
- (注1) 調査は冬季休暇の前後に実施された。なお1月14日が祝日だったために月曜日のデータは今回はとれていない。
- (注2) このうち12月18日15時は調査の都合上、配布ができなかったため回収票は0である。またアンケートの日時、図書館エリアについては配布時に図書館員が記入したので、回答欄が白紙の無効票も表4のデータには含まれている。これ以降の分析に関しては有効票のみの分析を行った